



THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日	毎週火曜日	時間	第1・3週 18:00~19:00	第2・4週 12:30~13:30
例会会場	日高市商工会	住所	〒350-1206 日高市南平沢1083 日高市商工会館内	
事務所	同上	TEL. FAX	042 (985) 3355	
会長	古本良子	幹事	谷野秀之	会報委員長 上野宗久

第1911回例会 2025年1月21日(火) 夜間移動例会 第1912回例会 2025年1月28日(火) 通常例会

2025年2月4日発行 第1707号

第1911回例会 夜間親睦例会 於：ムーンストーン

出席報告	1月21日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	1/7修正率
	夜間	21	21	2	0	100%	84.2%

会長の時間 古本良子会長

本日は、過日の例会でも触れさせて頂きました、ロータリーに於ける『職業奉仕月間』について続きをお話しさせて頂きます。まず、職業奉仕と一言と言っても「職業と奉仕???'となるかとおもいます。私自身入会したての頃は、それらの言葉を聞いても右から左へという具合でした。ロータリーに於いて職業奉仕を理解するには、『ロータリー運動は倫理運動である』ことを理解しなければならないといわれております。ロータリーは倫理運動であるがために、古来より様々な原理原則が誕生したようですが、これぞロータリーだと言われるのが職業奉仕です。ロータリーのロータリーたる所以は、『職業奉仕の実践にあり』とも言われております。このように、職業奉仕思想はロータリーの精神、哲学そのものということです。しかし、単に社会奉仕さえすればよい、お金や物で奉仕すればよいというものではありません。この教えに基づいて活動するのが『ロータリー活動』なのです。難しい話ですが、これらは当クラブの年度計画書等にも書き込まれております。似たように『職業倫理』という言葉がございます。それは、「非人道的、非社会的行為をしてはいけない。世のため人のために尽くしなさい。」という教えに基づいた言葉です。そしてその心を職業社会に適用していくのが職業倫理です。『職業』を分かりやすく要約しますと、「職業とはお金を儲けること」これは自分自身のためのものであります。しかし、家族や従業員がいる場合は、その人たちのことも考えて働かなければなりません。そして『奉仕』とは、自分以外の人のために尽くすことです。職業は自分のためのもの、奉仕は自分以外の人のためのもの、全く逆の意味の言葉が一つになって『職業奉仕』という言葉になるのです。このように、ロータリーに於いての奉仕の中心は「職業奉仕である」といわれて来た訳ですが、その奉仕の在り方は『I serve 私に奉仕する』が基本であり、奉仕の実践主体は『I』で、ロータリアン一人ひとりであると考えられております。時代の流れもあり、近年では個人のみならずクラブ単位や国際ロータリーとしての奉仕プログラムも盛んに行なわれるようになりました。考え方に変化はあるかもしれませんが、基本的に「ロータリークラブの会員は、奉仕の理想を各人の個人生活、職業生活および社会生活実践の基盤とすることに同意した、職業倫理を重んずる地域社会の事業人・専門職業人の集まりで、自己の職業を通じて奉仕をすることを志す人々」といわれております。今後も会員同士の親睦を深め、自己啓発を進めながら、自分の職業を生かして社会や地域に奉仕貢献していきたいと思っております。



幹事報告 谷野秀之幹事

地区事務所より(次年度対象)

・補助金管理セミナー案内

3月1日(土) 13:00~16:30 国立女性教育会館

出席対象 次年度会長、財団委員長

卓話

上野宗久会員

『ポリオ撲滅活動からクラブ活性化へ』

～「あと少し…」からの前進を目指して～

ポリオ根絶活動は、世界保健機構(WHO)と国際ロータリーの最優先事項です。しかし、この度再就任したアメリカのトランプ大統領は WHO 脱退を宣言しております。理由としては「アメリカは WHO に年間 5 億ドル(約 780 億円)を支払っているのに対し、中国は人口がはるかに多いにもかかわらず、年間 3900 万ドル(約 60 億円)しか払っていない」というものです。理屈として述べたにせよ、こういった宣言、行動はポリオ撲滅(その他感染症の抑止)にブレーキをかけるに他ありません。国際ロータリーでは WHO の協力を得て『エンドポリオキャンペーン』を掲げており、現在常在国は 2ヶ国(パキスタン、アフガニスタン)へと減少して参りました。「あと少し…」という所まできているのです。この現状を踏まえ、我々ロータリアンは、国や団体がどうであろうと個々人としてポリオに立ち向かう必要があるのです。

**～感染症の歴史～**

感染症とは、ウイルス、細菌、寄生虫などの『病原体』が体内に入り様々な不調を引き起こす病気のことです。人間のもつ免疫と感染症との戦いの歴史は古く、初期人類が誕生したまさにその瞬間から始まりました。ヒトの繁栄と共に、進化を繰り返してきた病原体は、この現代社会においても身近な脅威であることには変わりはありません。まずは私たちの暮らしの変化と、感染症の歩みを紐解く必要性がございます。感染の原因は『細菌』と『ウイルス』に大別され、本来は野生動物が起因、その後人に感染(狩猟生活により野生動物と接触。それらの肉を食べることによってうつる)そしてその病原体は人から人へと感染していったのです。紀元前 3000 年頃になると世界各地で文明がおこり、人間社会が急成長します。大都市建設と人口増によって、寄生虫、コレラ、赤痢、チフスなど、排泄物によって伝染する消化器病系の感染症が流行しました。更に交易が盛んになり、シルクロードを通して多くの感染症が人や家畜と共に運ばれ、免疫を持たない地域で急拡大していったのです。人と物の移動が、感染に拍車をかけたのです。人が過密する大都市は、病原体にとっては大変生きやすい環境でした。これは現代に於いても同条件といえるでしょう。近年では『コロナウイルス』がそうでありました。ただ、我々もこれらの『病原体』にやられっ放しという訳ではございません。人類は薬を開発し、ワクチンなどの様々な手段を駆使し感染症と戦ってきました。しかし、それに負けず病原体も進化を続けています。細菌(人の目で見ることができない小さな単細胞生物。『大腸菌』『黄色ブドウ球菌』『結核菌』『肺炎球菌』など)に対しては抗生物質が有効ですが、ウイルス(細菌よりもはるかに小さく、遺伝子とそれを固定するタンパク、それらを包む殻のみの構造体。『コロナウイルス』『インフルエンザウイルス』『ノロウイルス』など)には治療薬と呼べるものはありません。ワクチンに頼らざるを得ないのが現状であります。この『ワクチン』の先駆といわれるのが『天然痘(痘瘡)』ではないでしょうか。天然痘は、伝染力、罹患率、致命率の高いウイルス感染症として古くから知られております。天然痘は天然痘ウイルスの感染によって引き起こされます。古くは奈良時代から猛威を奮っており、我が国でも多くの犠牲者を出しました。しかし、イギリスの開業医、エドワード・ジェンナーが天然痘の予防法として、ワクチンの先駆けである種痘法を発明し、天然痘は 1980 年には世界から消え去りました。人類が初めて根絶したウイルス感染症であります。

～国際ロータリーとポリオ撲滅活動～

人類が天然痘の根絶に成功した 1980 年代、時を同じくして国際ロータリーが『ポリオ撲滅』に本格的に取り組み始めました。この時代、世界中では依然としてポリオが広く蔓延していました。ポリオは、特に発展途上国において、麻痺や死を引き起こす原因となっており、特に子どもたちの健康に深刻な影響を与えておりました。ポリオはウイルスですから、治療薬はありません。ワクチンに頼らざるを得ないのが現状であります。しかしロータリーは、単にワクチンを提供するだけでなく、これを広く普及させるための教育活動やインフラ整備など、多方面にわたる活動を展開しました。1985 年、国際ロータリーは『ポリオプラス』キャンペーンを正式に開始し、この活動は、世界の保健機関、政府、NGO と協力し、ポリオワクチンの接種活動を実施し、さらにポリオの予防に関する認知度向上を図り、世界保健機関(WHO)、ユニセフ、アメリカ疾病予防管理センター(CDC)などの機関と連携し、世界規模でのポリオ根絶に向けた取り組みを加速させました。それら長年の活動努力が、現在常在国は 2ヶ国『あと少し…』という所まで導いたのです。ここで重要なのは、世界保健機構(WHO)と国際ロータリーが手を取り合っているということです。世界各地での平和活動や、人道的問題への取り組みにおいて共に歴史を歩んでいる…。大変意義ある活動に、自身がロータリアンであるが故に携わることができる。それは自身の人生に於いて誇れる活動であり、人類の未来をも見据えた奉仕活動であるとおもいます。

出席報告	1月28日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	1/14 修正率
	昼間	21	15	2	6	68.42%	57.89%

ニコニコボックス報告 14名 合計金額 14,000円 累計金額 228,000円